

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

地②-6

喜び心を伝え、五つのわ（和、輪、我、笑、話）の調和

事業所名	報徳会 黒石ケアサポート センター	管理者	中村公生	事業所 の特徴	を図る。 認知症ケアへ根拠に基づいた効果的なアプローチを行い、生活の維持、回復へ繋げ、利用者、家族の想いや生活を紡ぐ支援をする。
------	-------------------------	-----	------	------------	---

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	人	1人	人	人	3人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> サービス評価の目的・趣旨を説明し、改善計画の取組み・経過を定期的に確認する。 D. 地域へ出向いて本人の暮らしを支える取組みについて実践していることを全体が把握できるよう優先して取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> D. 地域へ出向いて本人の暮らしを支える取組みについて、認知症カフェに担当職員以外が数名参加し外部へ出る関わりをした。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の生活を支えるという途切れることが許されない多忙な日常業務の中で、全員が真摯に取り組んでいることが結果に表れています。 集計欄の数字だけでも前回、前々回との比較ができれば目標となって取り組み意欲につながるのではないかと。 項目理解に特化した勉強会や研修の実施により理解度を標準化することが必要ではないでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所評価において「できていない」に至らなかった理由を把握する。「3.生活状況の把握」の項目の「以前の暮らし方（10個以上の暮らし方を把握できているか?）」を具体化し評価に繋げる。
B. 事業所のしつらえ・環境			<ul style="list-style-type: none"> お正月やお雛様など月ごとのおもてなし感があふれていて楽しいです。 玄関に懐かしい品を配し、季節ごとの装飾を施すなど工夫が見られます。行事の賑やかさと普段の落ち着きのメリハリが日常生活の雰囲気を醸しているように感じます。 	
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響や動向を見ながら、地域行事等へオンラインでの交流や参加、地域の方を施設に招く機会を検討する。又施設の情報発信を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流納涼を4年ぶりに開催し地域交流することができた。 さばた一ずくらぶ企画で、地域の方と交流しクリーン作戦やボランティア受け入りができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「2.事業所が地域に知られているか」「3.相談しやすい場所か」については、住民の感じ方なので意見や感想を吸い上げる機会を設けて下さい。そのためには、「4.スタッフが地域の行事やイベントに参加する」機会が必要だと思います。コロナも落ち着いたので、ぜひ、スタッフが外に出る機会を作ってほしいと思います。 	

<p>D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で積極的に外部へ出向く状況は難しいが、「わ」のカフェ、家族支援あやとり「わ」、認知症サポーター養成講座など定期的に開催している場面で情報発信を継続していく。また、地域との交流として小学校などの行事で ZOOM の活用を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェに担当職員以外が数名参加し外部へ出る関わりをした。 ・地域の子ども会ねぶた運行で施設へ訪れ交流ができた。 ・認知症カフェ企画で田園福祉パークにて、外部講師をよんで地域の方を招き講座とカフェを開催し交流した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流として小学校などの行事で ZOOM の活用が課題であるとされていた点について、次回までに何かしら展開がるとよいかと思います。 ・C と同様に、利用者が地域の行事やイベントに参加する機会が少ないことを残念に思う職員がいることが自己評価に表れています。リモートなどを活用したり、新たな発想を具体化したり、地域と利用者の接点を見つけてほしいと思います。 ・「わ」の畑や花を植えたり、草取りしたり気分転換ができています。今年は地域交流納涼祭を開催できたことはよかったです。 	
<p>E. 運営推進会議を 活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議にて、利用者状況の報告等に関連する地域での現状や取組みについての確認、地域へのサービス等情報共有への取組みを図り、地域の把握へ繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議にて利用者状況の現状報告と認知症カフェや家族支援、地域交流納涼祭について継続的に事業報告を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍も過ぎ、地域との繋がりがりや住民との交流を復活することが求められるなか、推進会議において“の現状や”団体“との繋がりがりなど、利用者や事業所内の話題と併せて地域や関係機関と事業所の関係に関する話題を増やしてもよいのではと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議にて、利用者状況の報告等に関連する地域での現状や取組みについての確認、地域へのサービス等情報共有への取組みを図り、地域の把握へ繋げる。
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流できる場面や生活困窮者の支援に向け非常用備蓄食料を提供できることを検討する。 ・訓練の様子を写真や動画で発信、外部の方が参加できる場を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常用備蓄食料を内部での提供はしたが、外部への発信まで至らなかった。 ・地域消防訓練の実施状況、課題について計画書を参照し運営推進会議で報告した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域消防団との合同避難訓練の実施など防災対策については理解できました。期限間近の備蓄品を還元し住民を施設に招くなど、複数の課題を合わせて一つの事業を組み立てるなど、職員の発想を出す機会を設けてください。 ・災害時などの対策を色々考えてくださっているようで心強いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所について事業所の役割を発信する場を設ける。